

沼田林野庁次長視察

林野庁の沼田正俊次長が、6月9日に、久万林業活性化プロジェクト及び父野川事業所を視察されました。

カーブ式製材システムによる自動解析の木取りラインの流れについて興味深く質問され、乾燥については工場内から排出される木くずや端材を燃料にしたバイオマスボイラーによる人工乾燥について、熱心に見学されました。

「久万林業活性化プロジェクトが地域一体となって、木材生産から製材加工・販売まで円滑に取り組んでいることに感銘を受けた。」とおっしゃっていただきました。



民主党森林・林業調査会視察

菅直人会長を始めとする森林・林業調査会のメンバーが5月19日に父野川事業所を視察されました。

「国の森林・林業再生プランが目指す目標の多くが、久万林業活性化センター（搬出間伐の拡大や雇用増加）や、大規模加工施設となる父野川事業所（低コスト・高品質）で具体化されており、非常に良い方向に動いていると実感できた。」との感想をいただきました。

また、今年度から始まる再生可能エネルギーの固定価格買取制度で、木質バイオマスも一定価格で評価されることになるので、森林資源は総合的に活用できると考えておられました。



久万林業活性化プロジェクトへの注目高まる!!

久万林業活性化センター 間伐・間伐材利用コンクール 「集約化・低コスト間伐部門」 最優秀賞林野庁長官賞受賞



上記2つの視察でもおわかりいただけますように、久万林業活性化センターが行っております「集約化施策」が全国的に注目を集め始めております。

平成12年度から実施されている間伐・間伐材利用コンクールは、森林吸収源目標の達成に向けて林野庁協力のもと平成23年度も実施されました。

応募件数は26件で、間伐に関する取り組みを競う「集約化・低コスト間伐部門」で、当組合は、最優秀賞の林野庁長官賞を受賞いたしました。

当センターでは、久万高原町の森林を団地化して、間伐等の手入れを事業体に委託する方法をとり、一括管理させていただいております。

この取り組みが、間伐面積や木材の生産量、地域経済への波及効果等の実績として評価されました。